

# 歴史災害から見る名古屋〔昭和(戦後)～平成〕

## 風水害被害が多い現代

伊勢湾台風をはじめとした大型台風や東海豪雨などによる大規模な風水害が多く、近年では局地的豪雨による局所的な被害も多く発生しています。

## 伊勢湾台風

伊勢湾台風は昭和34年9月26日(1959年)に名古屋市に最接近した台風で、市域で死者・行方不明者合わせて1,851人にのぼる尊い人命を失うなど甚大な被害を受けました。この伊勢湾台風を基に災害対策について定めた災害対策基本法が成立しました。

### 伊勢湾台風被害図

台風による被害の様子を、当時の南区①白水小学校6年生の児童が描いた作品。描いた人の記憶によると、学校再開後に放課後などを利用して、それぞれの担当箇所を手分けして描いたといわれています。



【白水小学校で描かれた被災時の様子】

### 被災後の中川運河周辺

伊勢湾台風直後の港区②本宮町付近の様子。この一帯は名古屋港を中心として工業が発展していたため、多くの企業にも甚大な被害を及ぼしました。



【冠水した本宮町付近】

### 冠水した名鉄常滑線道徳駅

伊勢湾台風では長期に渡って水が引かない「たん水被害」がひどく、名古屋鉄道常滑線③道徳駅では線路が完全に浸水してしまい、駅の機能が復旧するまでに約2週間かかりました。



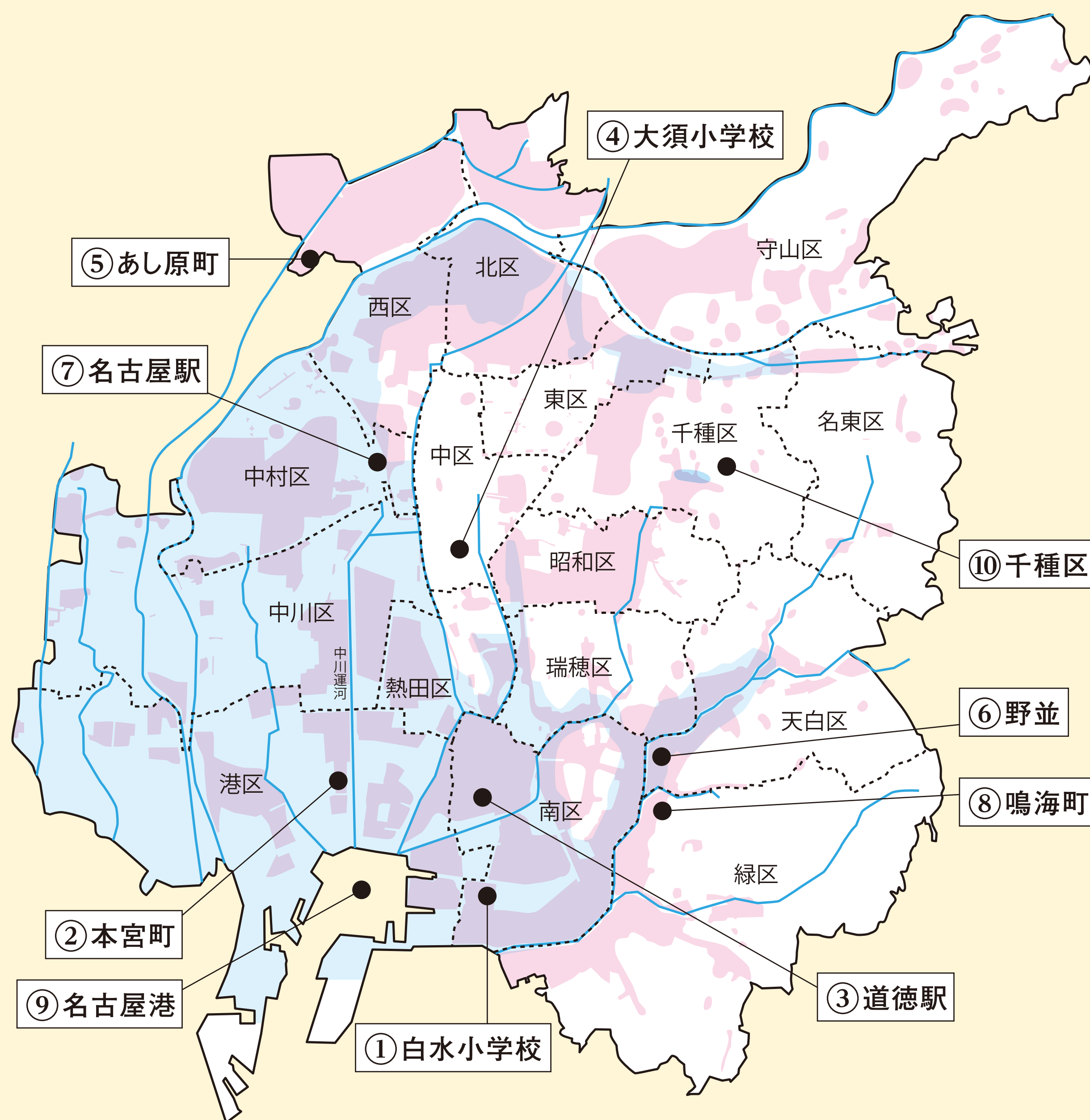
【冠水した道徳駅のホーム】

### 臨時避難所となった大須小学校

中区における被害は全市の中で最も少ない状況でしたが、それでも死者2人、負傷者1,919人、家屋の被害が735件発生しました。④大須小学校を始めとした多くの小学校が臨時避難所として被災者を受け入れました。

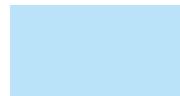


【避難所となった大須小学校】



### 名古屋市内における被害状況

| 区分          | 伊勢湾台風   | 東海豪雨   |
|-------------|---------|--------|
| 死者・行方不明者(人) | 1,851   | 4      |
| 負傷者(人)      | 40,528  | 47     |
| 住家の被害戸数(戸)  | 118,324 | 31,790 |

| 凡 例                                                                                   |                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
|  | 昭和34年9月 伊勢湾台風浸水区域(当時の市域内) |
|  | 平成12年9月 東海豪雨浸水区域          |
|  | 主な河川                      |

※この浸水区域は、現地調査や報告資料を基に作成したものであり、全ての浸水箇所を反映したものではありません。

## 東海豪雨

平成12年9月11～12日(2000年)にかけて東海地方を襲った集中豪雨では、名古屋地方気象台観測史上最も高い観測値を記録しました。都市型災害としては過去に例を見ないほどの大規模な水害となり、国の激甚災害に指定されました。  
※激甚災害…地震や風雨などによって著しい被害が発生した災害のうち、被災者に対する特別な助成を行うことが必要であるとして国が政令で指定する災害。

### 河川堤防の決壊・越水

市北西部を流れる新川で左岸堤防が決壊したのを始め、市内では河川堤防の破堤が3ヶ所、越水が17ヶ所発生しました。特に、西区⑤あし原町での新川の堤防決壊は約100mに及び、決壊現場付近一帯は水没し、住宅街に大きな被害を出しました。



【西区あし原町の堤防決壊場所】

### 水没した街並み

天白区では、未曾有の豪雨により、⑥野並地区一帯が浸水しました。その際、ポンプ場も浸水し、この地区の雨水排水を完了するまでに相当の時間を要しました。



【水没した野並交差点付近】

### 名古屋駅内での帰宅困難者

⑦名古屋駅では新幹線や在来線を含めた公共交通機関が不通となりました。市営地下鉄においては、大曽根駅、平安通駅、塩釜口駅、野並駅の4駅で浸水し、名古屋市の公共交通機関は麻痺しました。



【混雑した名古屋駅構内】

### 住宅街で起きたがけ崩れ

緑区⑧鳴海町伝治山付近の住宅街で高さ7メートル、幅約10メートルに渡りがけ崩れが起こり、道路まで土砂で埋まり、1名が亡くなりました。



【土砂災害現場を報じた新聞記事】

## 頻発する大型台風や局地的豪雨

近年では風速が強い大型台風や局地的豪雨が全国的に発生しています。短期間で多量の雨が降ることにより地盤が緩むことから浸水被害以外にも、平成26年8月(2014年)に広島市で発生したような土砂災害も起こりやすくなるため、局地的豪雨には注意が必要です。

### 平成10年台風7,8号(1998年)

名古屋市を襲った台風7,8号は観測史上初の2日連続の台風襲来により公共交通機関は全面的に麻痺し、⑨名古屋港では21隻が港外や運河などに避難し、市内の樹木や街路樹が1,195本も倒れる暴風雨となりました。

### 平成20年8月末豪雨(2008年)

東海地方などで記録的な豪雨となり、市内では道路冠水などが相次ぎ、南区や⑩千種区などで約36万世帯に避難勧告が出て、中村区及び中川区を中心に内水はん濫等により1万1千棟余におよぶ床上・床下浸水家屋の被害を出しました。

### 平成23年台風15号(2011年)

台風の影響で尾張東部が大雨となり、名古屋地方気象台で最大1時間降水量45.5mm、最大24時間降水量223.5mmを観測しました。名古屋市では、庄内川の堤防越水等により378棟におよぶ床上・床下浸水家屋の被害を出しました。